

大熊町第二次復興計画改訂(案)

アンケート調査結果

【集計及び考察】

平成31年3月8日

【0. 総括】

（1）調査概要

- 調査期間 平成31年1月7日～1月21日
- 調査対象数 5,176件
(震災発生時に住民登録をしていた世帯の代表者)
- 回収数 1,863件(回収率36.0%)
- 年代別回収率

90歳代以上	26.8%
80歳代	38.0%
70歳代	53.4%
60歳代	49.9%
50歳代	39.4%
40歳代	25.3%
30歳代	15.7%
20歳代	13.3%
10歳代	0.0%

（2）帰還意向

- 戻りたいと考えている 14.3%
(将来的な希望含む)
- まだ判断がつかない 28.4%
- 戻らないと決めている 55.0%
- 無回答(不明) 2.3%

【参考】平成29年度住民意向調査

(回収数 2,623件(回収率50.3%))

- 戻りたいと考えている 12.5%
(将来的な希望含む)
- まだ判断がつかない 26.9%
- 戻らないと決めている 59.3%
- 無回答 1.4%

（3）4つの重点施策に係る考察

1) 町民生活の支援

- 帰町したい町民は地域づくりへの参加意欲は高い。一方で、避難先で安定した生活の維持を望まれる町民も多い
- 町内のイベントや就労機会への参加について、高齢者を中心とする帰町者の参画意向が強い
- 避難先で町が行う自宅訪問、健康診断の継続を求める声が多い

2) 役場機能の再編

- 新庁舎開庁後も、出張所等における窓口機能継続を求める声が多い

3) 町土復興

- 高齢者の買い物・通院等の移動手段となる交通システムの要望、定住者の増加に繋がる働く場所の確保、町内における起業者を応援したいという声が多い

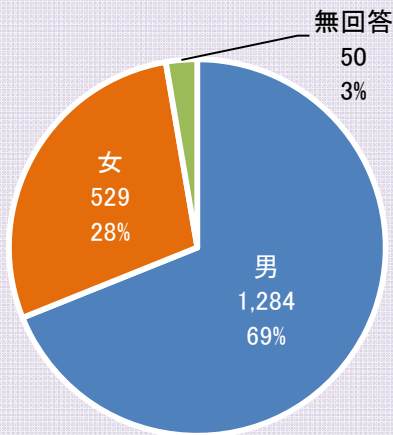
4) 教育

- 帰町したい町民は、町内における短期学習機会、自己の知識等を子供たちに教える場、地域課題にみんなで取り組む場に参加したいという意見が多い

【1. 回答者の属性について】

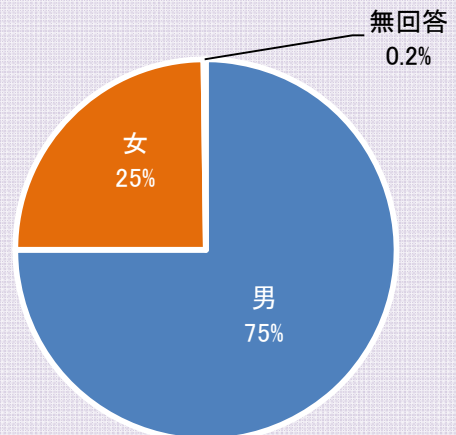
問1-1 性別

1. 集計結果



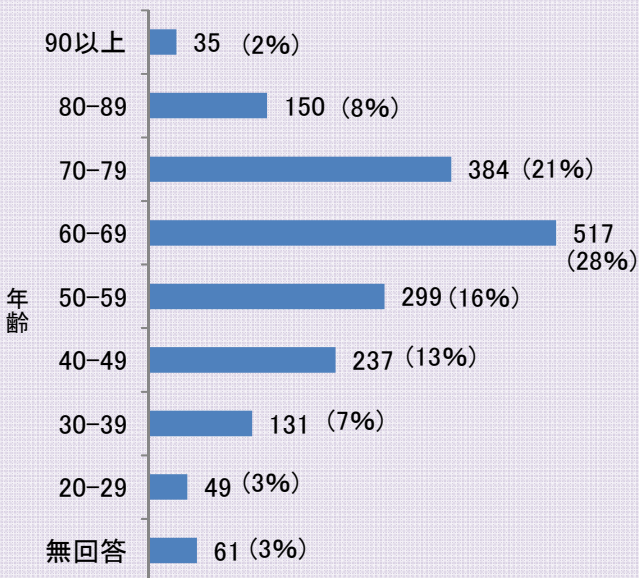
※無回答には重複回答による不明を含む。以下、同様。

(参考) 第二次復興計画策定時(平成26年度)

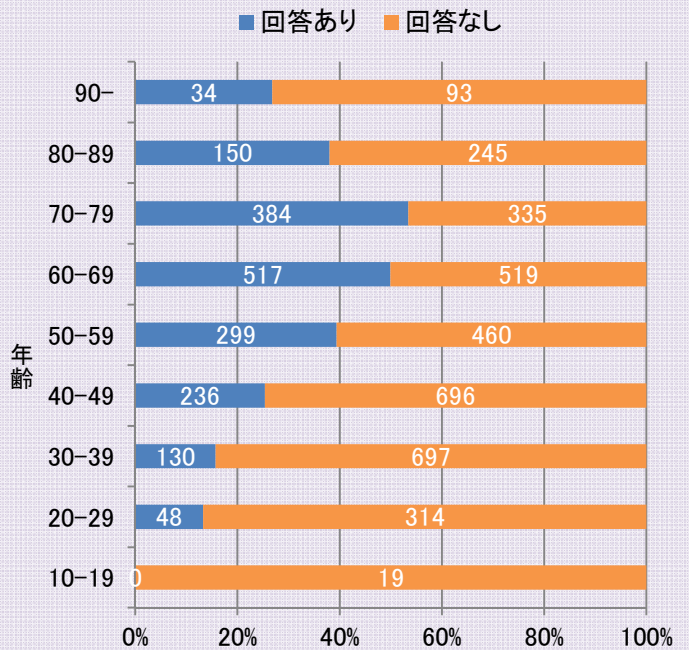


問1-2 年齢

1. 集計結果



2. 分析結果(世代別回答率)



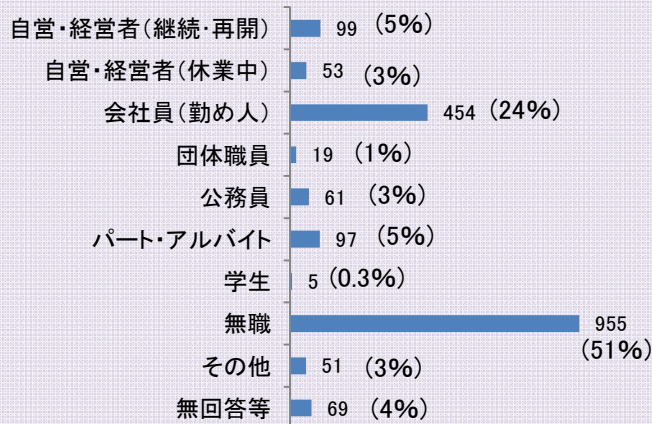
3. 考察

- 70代、60代の回答率が高く、総じて40代以下の回答率が低い
- 帰町意向の高い高齢者が多く回答しているものと想定される

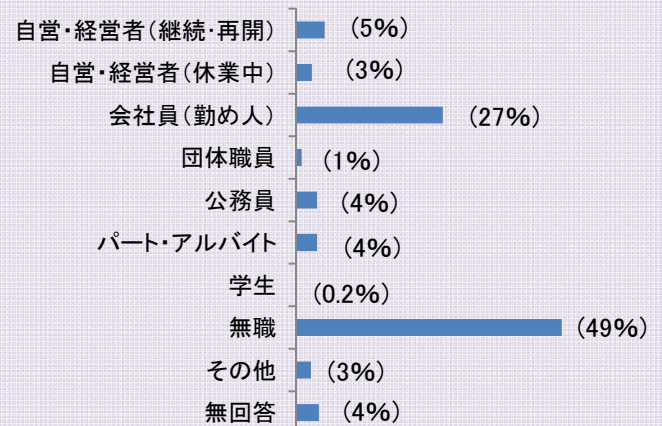
【1. 回答者の属性について】

問2 職業

1. 集計結果



(参考) 平成29年度住民意向調査

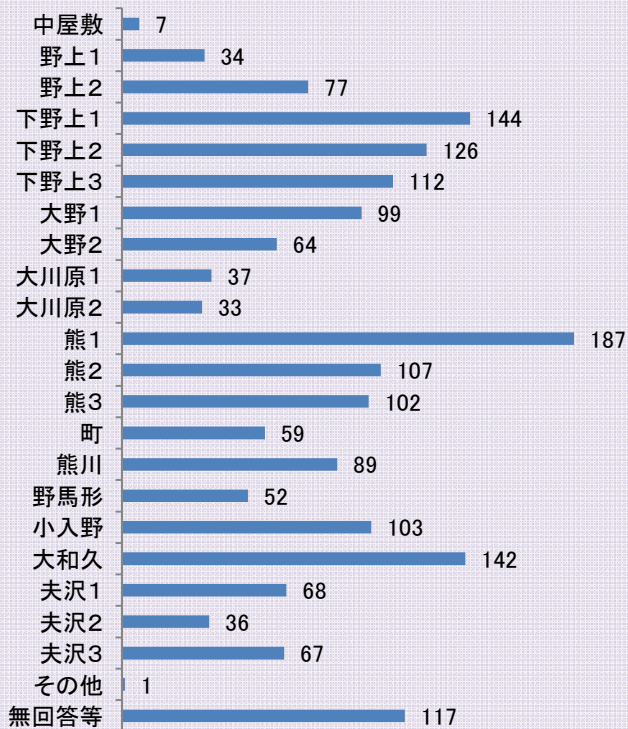


3. 考察

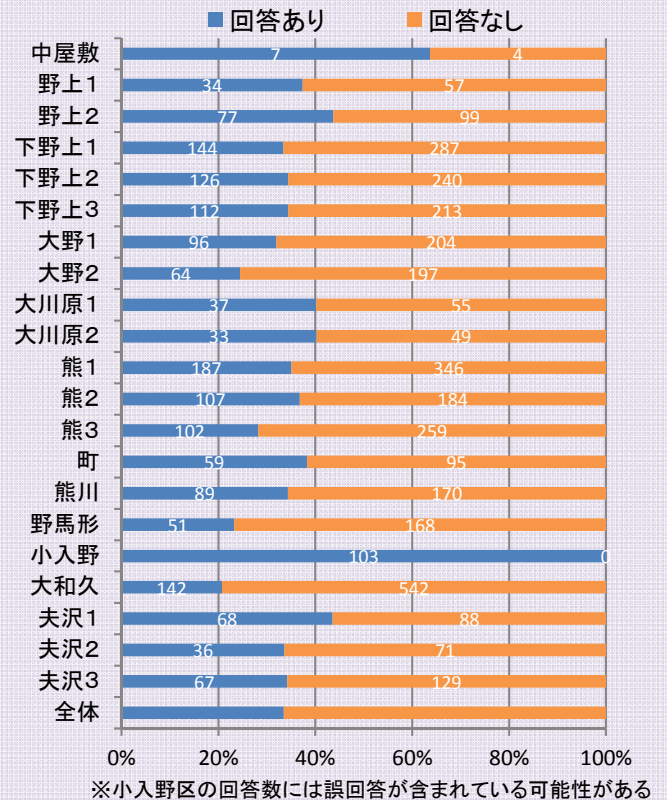
○高齢者の回答が多いことから、無職の割合が高い（昨年度住民意向調査と同傾向）

問3 震災当時の居住地

1. 集計結果



2. 分析結果（行政区別回答率）



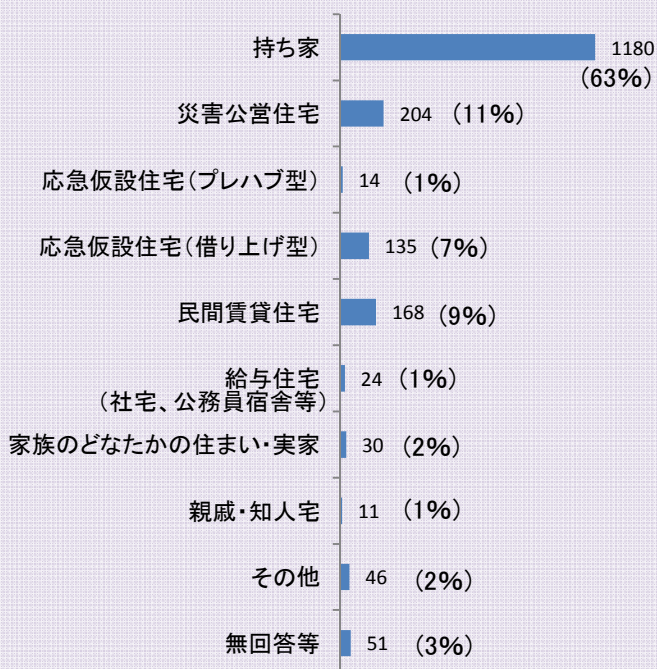
3. 考察

○回答率は概ね3割～4割台であり、一部を除いて大きな差異はない

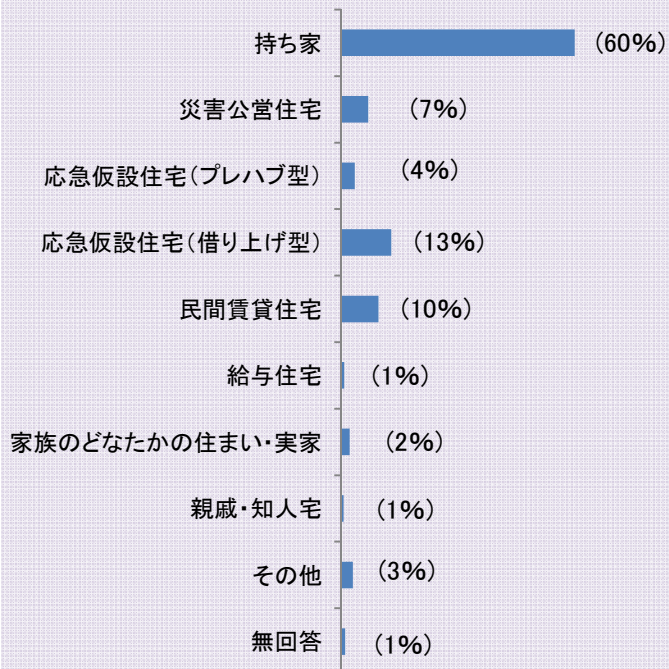
【1. 回答者の属性について】

問4 現在の居住形態

1. 集計結果



(参考) 平成29年度住民意向調査



3. 考察

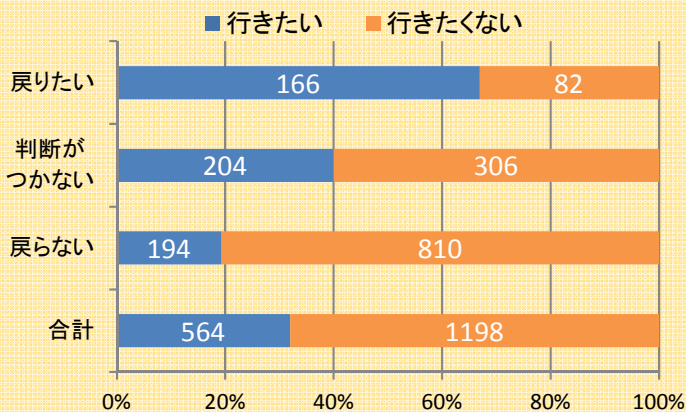
- 昨年度住民意向調査時に比べ、応急仮設住宅の割合は減少し、その後完成した災害公営住宅の割合と持ち家の割合が増加
- 持ち家率の増加は避難先での生活を決めている人が増えている傾向と想定される

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

1. 町民生活の生活支援について

問1 大川原地区復興拠点で町のお祭りや伝統行事、地区のイベント等を開催する場合、行ってみたいとお考えですか

1. 集計結果（帰町意向とのクロス）



2. 主な個別意見（祭り、イベント等）

ふるさと祭り	[97]
盆踊り	[35]
花火大会	[20]
もちつき大会	[8]
スポーツ大会	[7]
バーベキュー	[6]

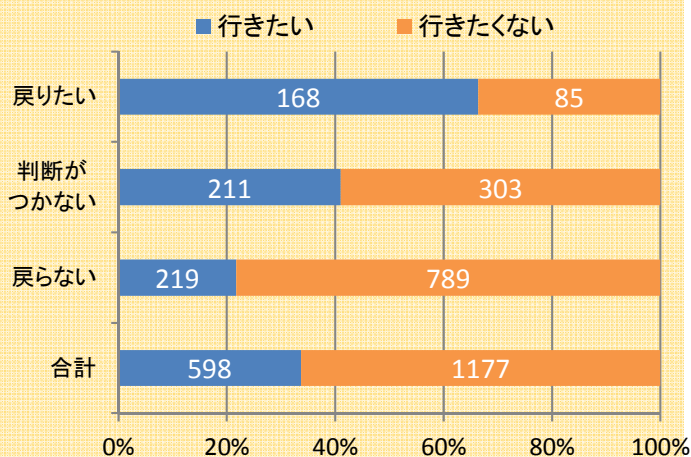
※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

- 帰町を希望する町民の参加意向が高い
- イベントの内容は、ふるさと祭り、盆踊り、花火大会が上位
- 戻らないと決めている町民でも2割は参加意向がある

問2 大川原地区復興拠点で同窓会や敬老会が開催する場合、行ってみたいとお考えですか

1. 集計結果（帰町意向とのクロス）



2. 主な個別意見（行かない理由）

交通手段が無い	[74]
距離的な理由（遠い・不便等）	[62]
知人・同窓生がいない	[58]
高齢・身体的不安	[30]
行く気持ちになれない	[13]
宿泊所が無い	[10]

※ [] 内は回答数。複数回答あり

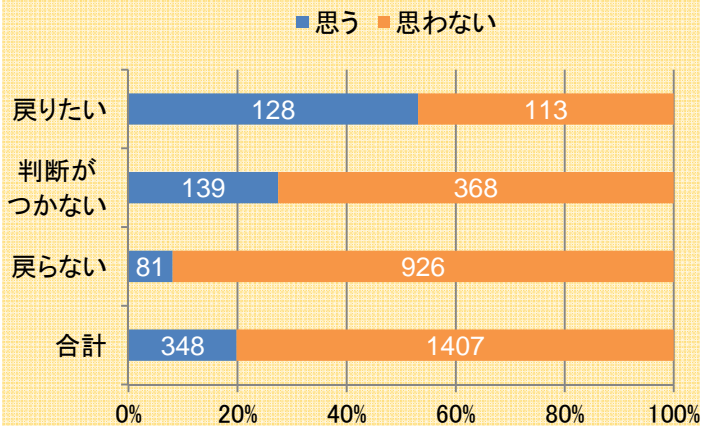
3. 考察

- 問1と同様、帰町を希望する町民の参加意向が高い
- 参加しない理由は、交通手段が無い、距離が遠い、知人がいないが上位
- 戻らないと決めている町民でも2割は参加意向がある

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問3 町内にこれまでの仕事や経験、趣味などを生かせる就労の機会があれば参加したいと思いますか

1. 集計結果（帰町意向とのクロス）



2. 主な個別意見（生かしたい経験等）

農業・造園・園芸等 [15]
 原発関連（除染、線量測定等） [7]
 医療・介護等 [6]
 建築・建設 [6]
 学習（語学等） [3]
 飲食関連 [3]
 その他（車両運転等） [3]

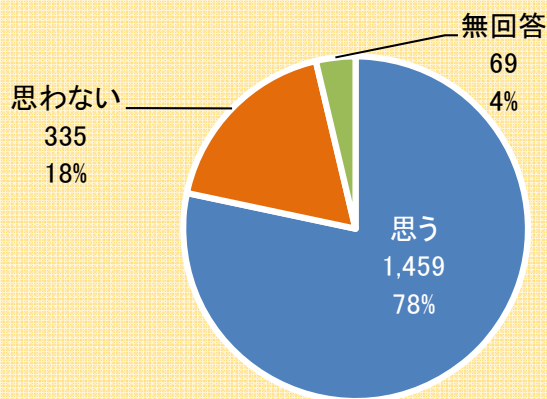
※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

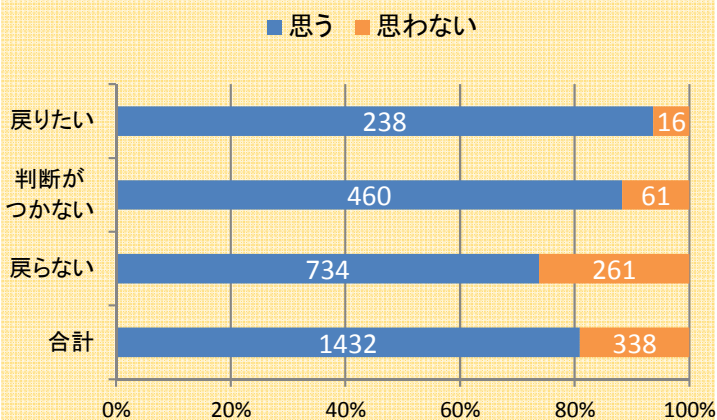
- 帰町意向のある町民の約半数が、高齢者中心にも関わらず、就労意欲を持っている
- 生かしたい仕事・経験等は、農業・造園等、原発関連、医療・介護等が上位

問4 町内に福祉サービス（高齢者、障がい者、子育て支援等）が集約的に配置されていると便利だと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果（帰町意向とのクロス）



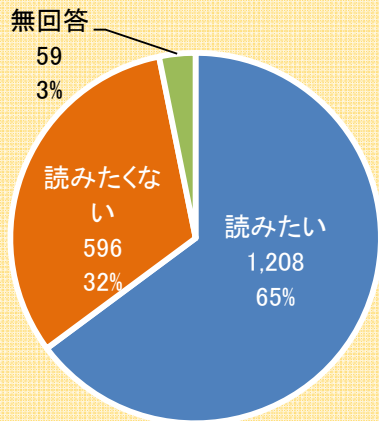
3. 考察

- 帰町意向に関わらず、福祉サービスは集約的配置が便利という意見が多い

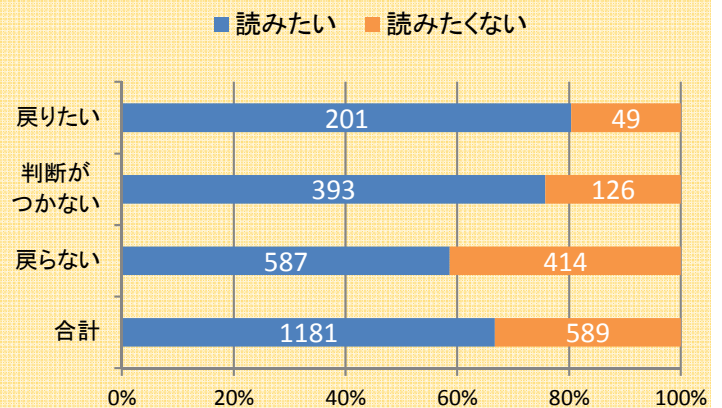
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問5 帰町した人や移住した人が町内でどんな生活をしているかを発信する情報(フェイスブックやブログ等)を読みたいですか

1. 集計結果



2. 分析結果 (帰町意向とのクロス)

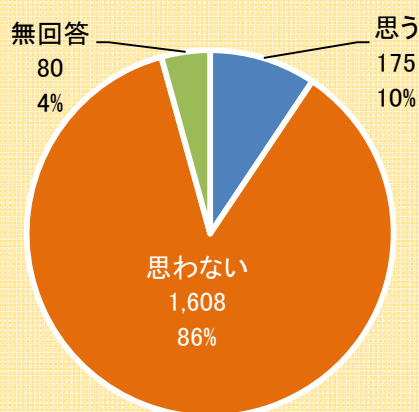


3. 考察

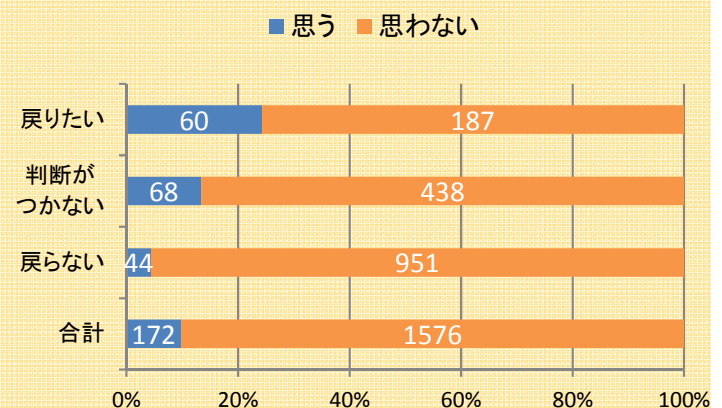
- 帰町意向に関わらず、読みたいと回答した方の割合が高い
- 戻らないと決めている町民も、リアルタイムに町の情報を知りたい意向を持つ傾向にある

問6 大熊の生活に不足していることがあれば、自らビジネスに繋がたいと思いますか(例:飲食店の経営)

1. 集計結果



2. 分析結果 (帰町意向とのクロス)



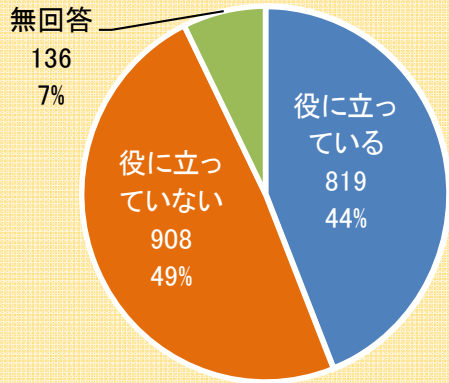
3. 考察

- 帰町を希望する町民の2割強は起業する意向がある
- 戻らないと決めている町民でも、少数であるが起業する意向のある人がいる

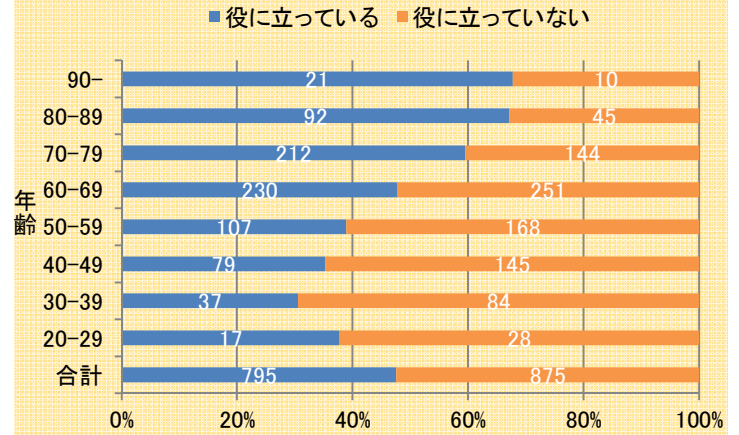
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問7 行政関係者等が皆様のご自宅を訪問して状況をお伺いする活動は、皆様の生活のお役に立っていますか

1. 集計結果



2. 分析結果（年齢とのクロス）

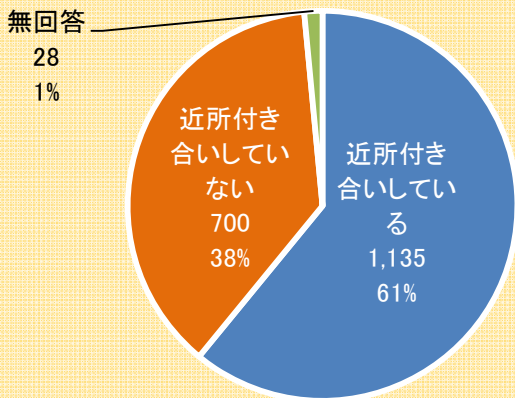


3. 考察

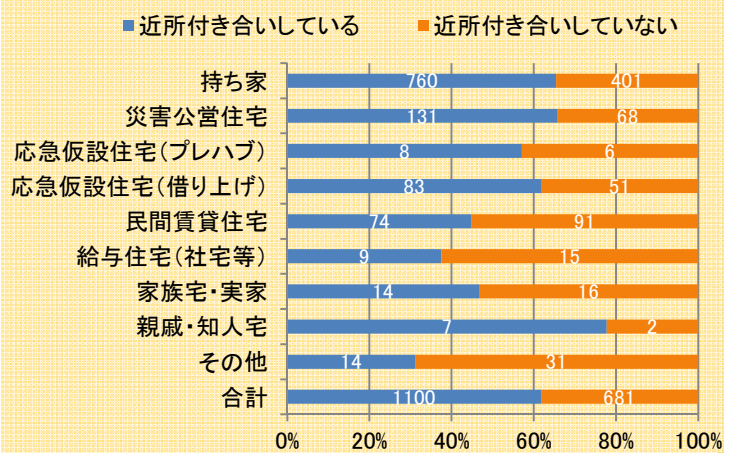
- 高齢者を中心に、見守り活動は役に立っているとする意見が多い
- 高齢者以外の世代の役に立っているという回答は、離れて暮らす親への見守り活動についての回答と想定される

問8 あなた(またはご家族)は避難している大熊町の方々と交流したり、あるいは避難先地域の方々等とご近所付き合いされたりしていますか

1. 集計結果



2. 分析結果（現在の居住形態とのクロス）



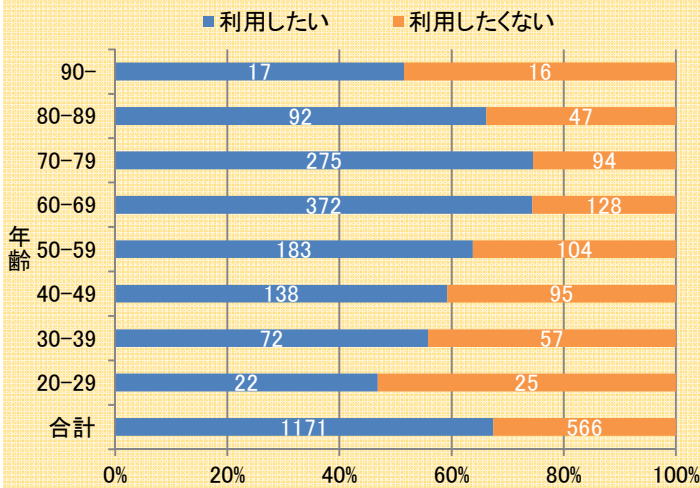
3. 考察

- 持ち家及び災害公営住宅に現在入居している方の割合が高い
- 災害公営住宅でのコミュニティづくりが進んでいること、避難先での生活を決めてコミュニティに参加していることが想定される

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問9 大熊町が避難先で実施する健康診断や介護予防講座を今後も利用したいとお考えですか

1. 集計結果（年齢とのクロス）



2. 主な個別意見（継続を希望するサービス）

健康診断	[343]
各種検査（がん検診等）	[21]
介護予防講座等	[19]
予防接種	[5]

※〔 〕内は回答数。複数回答あり

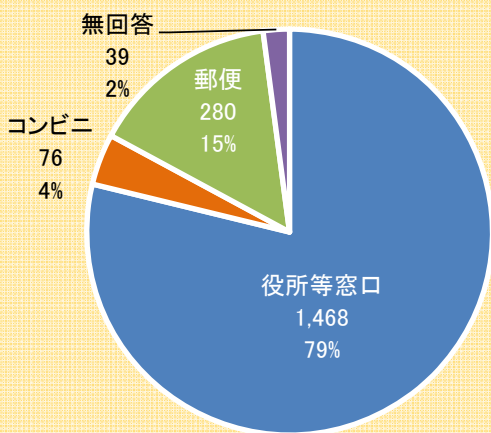
3. 考察

- 利用意向は60代以上が高い
- 50代以下は、勤務先で健康診断の受診等が想定される
- 今後継続を求める具体的なサービスは、健康診断、がん検診等の各種検査、介護予防講座等が上位

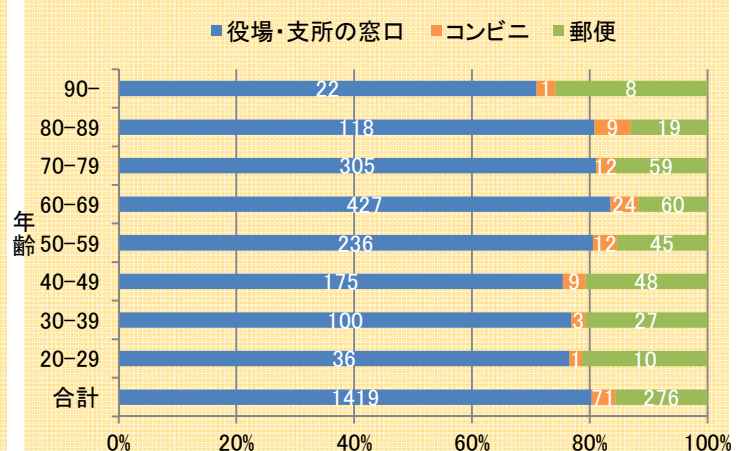
2. 役場機能の再編について

問1 住民票や印鑑証明はどこで取得していますか

1. 集計結果



2. 分析結果（年齢とのクロス）



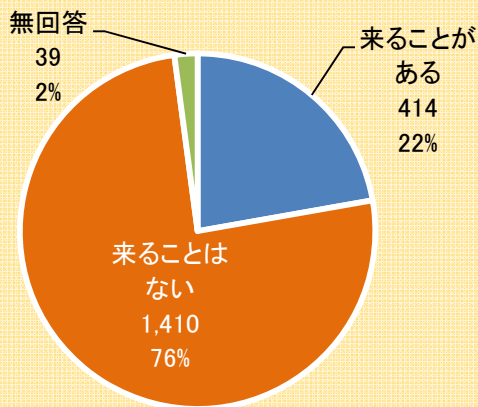
3. 考察

- 年齢に関わらず、役場等窓口による取得が多い
- コンビニによる取得が少ない要因として、マイナンバーカードの取得率の影響と考えられる

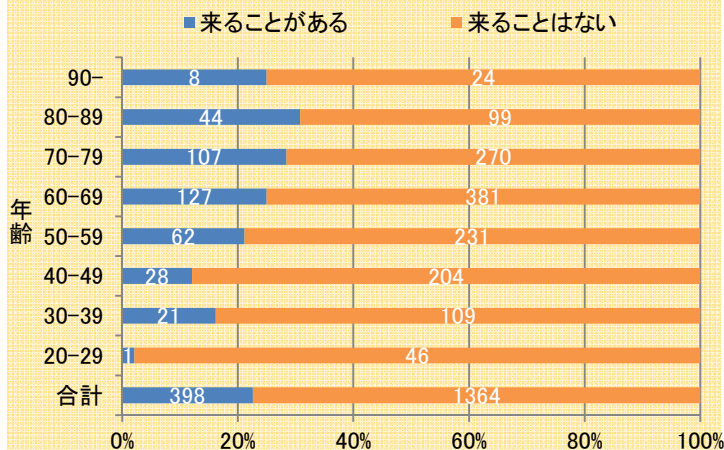
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問2 介護や福祉に関する相談で役場・支所に来ることはありますか

1. 集計結果



2. 分析結果（年齢とのクロス）

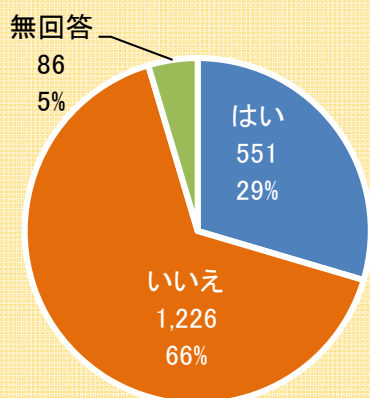


3. 考察

- 年齢に関わらず、役場等に来ることがある人の割合は低い
- 高齢者が役場等に来ることがない要因として、見守り活動で自宅を訪問した際に、介護等の相談を行っていることが考えられる

問3 問1、問2以外の用事で役場・支所に来ることはよくありますか

1. 集計結果



2. 主な個別意見（具体的な用事）

証明書等申請・発行手続き	[105]
イベント・会合等	[46]
選挙（投票）	[39]
業務等	[37]
税務（納税・申告）	[24]
行政への各種相談	[21]
※ [] 内は回答数。複数回答あり	

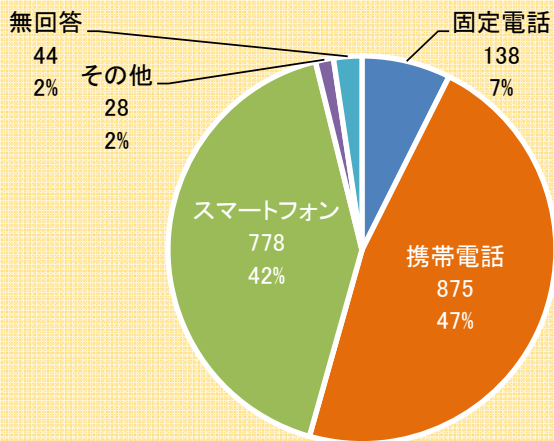
3. 考察

- 役場等に来る用事は、証明書等の申請・発行手続き、イベント・会合等、選挙（投票）が上位

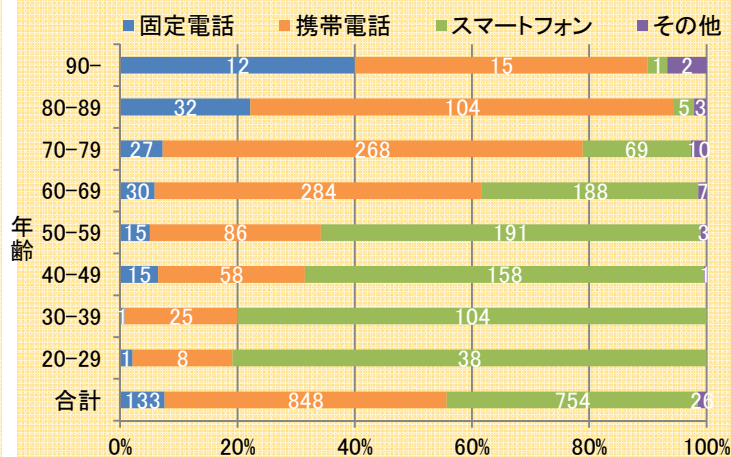
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問4 役場へご連絡する場合の連絡手段は何ですか

1. 集計結果



2. 分析結果（年齢とのクロス）

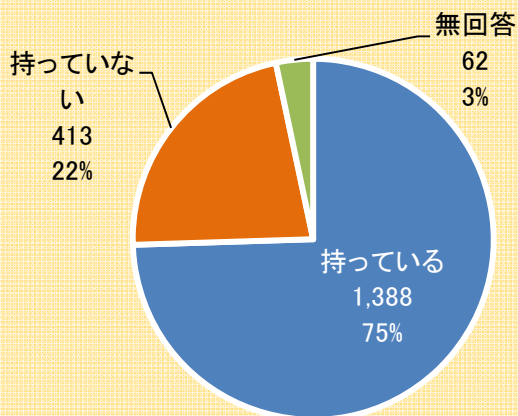


3. 考察

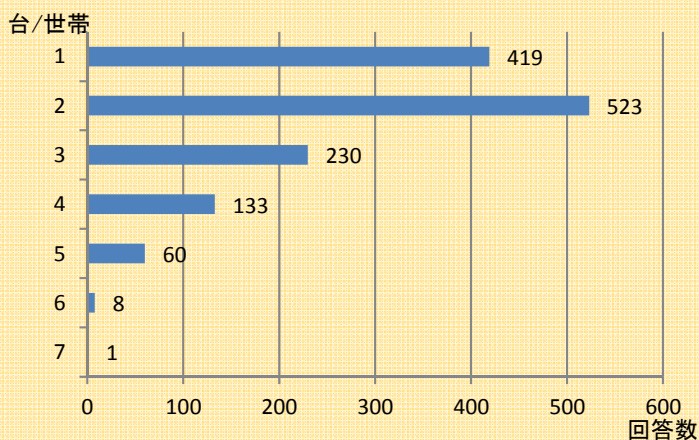
○60代以上は携帯電話、50代以下はスマートフォンの割合が高い

問5 ご家族の中でスマートフォンをお持ちの方はご自身を含めて何人ですか

1. 集計結果



2. 家族で所有している台数



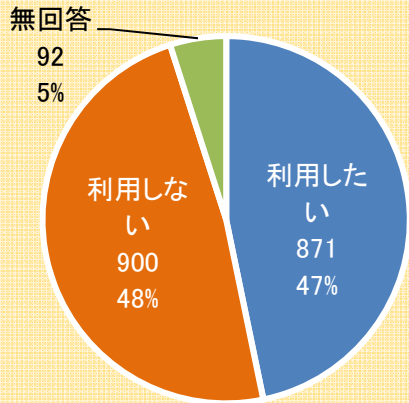
3. 考察

○スマートフォンは約8割の世帯が所有し1世帯あたりの所有台数は2台が最も多い

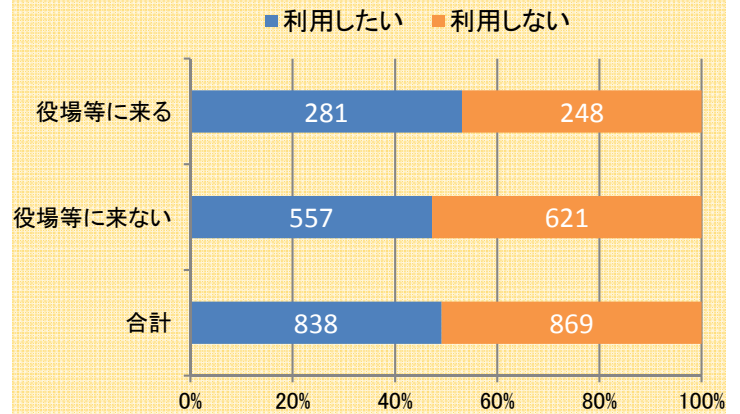
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問6 大熊町内の役場に行かず、支所等のテレビ電話のある窓口で担当部署に相談ができるとしたら利用したいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(その他用事で役場に来るとのクロス)

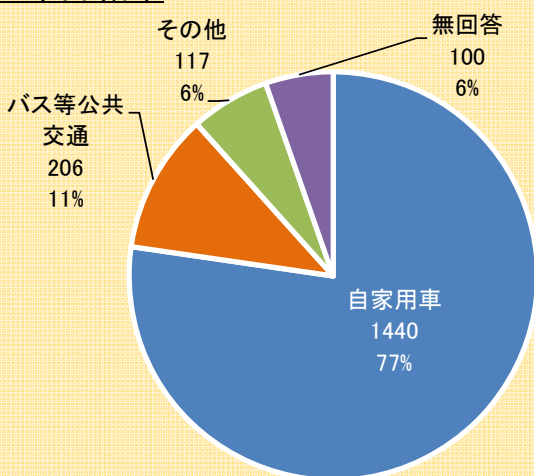


3. 考察

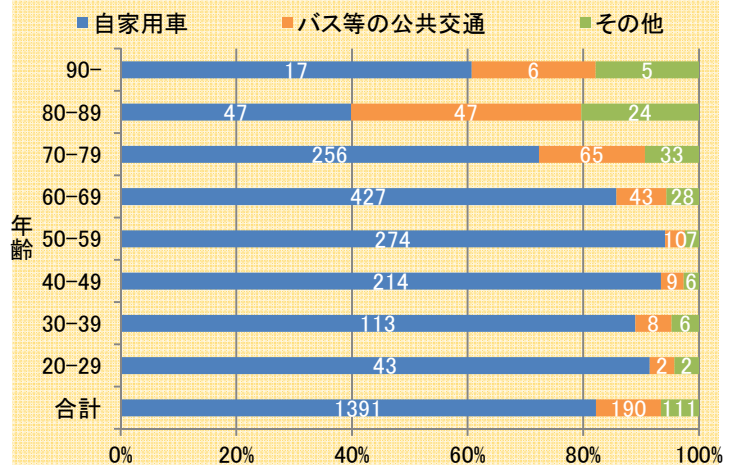
- 約半数の回答者がテレビ電話窓口の利用を希望している
- 役場・支所によく来る方の利用意向は、来ない人に比べて若干高い

問7 新庁舎に訪れる際の交通手段についてお知らせください

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス)



3. 考察

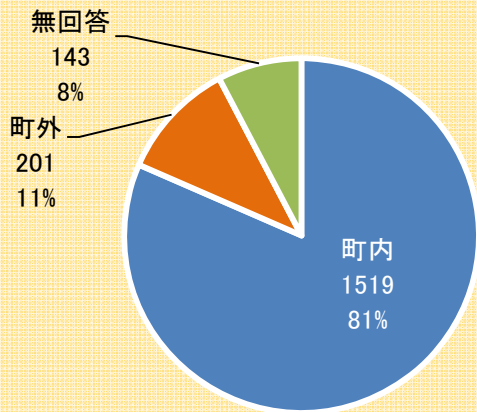
- 高齢者を中心に公共交通を利用する割合が高い
- 50歳代以下の町民が公共交通を利用する割合は極端に低い(自家用車利用)

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

3. 町内の生活環境について

問1 避難前に食料品や日用品の買物をしてきた主な場所はどこですか

1. 集計結果



2. 主な個別意見(具体的な場所)

【町内】

ヨークベニマ	[371]
ルプラント4	[288]
梅田ストア	[149]

【町外】

ヨークベニマル	[36]
サンプラザ	[14]
ダイユーエイト	[9]

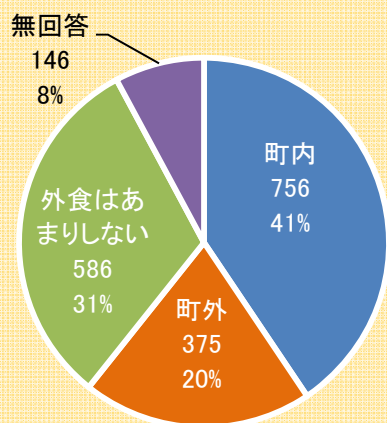
※〔 〕内は回答数。複数回答あり

3. 考察

○町内のスーパー等で買い物をしてきた人の割合が高い

問2 避難前によく外食をしていた場所はどこでしたか

1. 集計結果



2. 主な個別意見(具体的な場所)

【町内】

ニューちゃいな	[98]
幸楽苑	[76]
平安	[46]
レインボー	[27]
八龍	[22]

【町外】

幸楽苑	[3]
-----	-----

※〔 〕内は回答数。複数回答あり

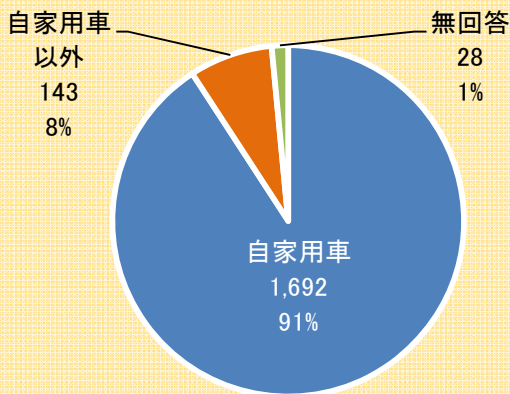
3. 考察

○国道6号沿道の店舗を利用していた人の割合が高い

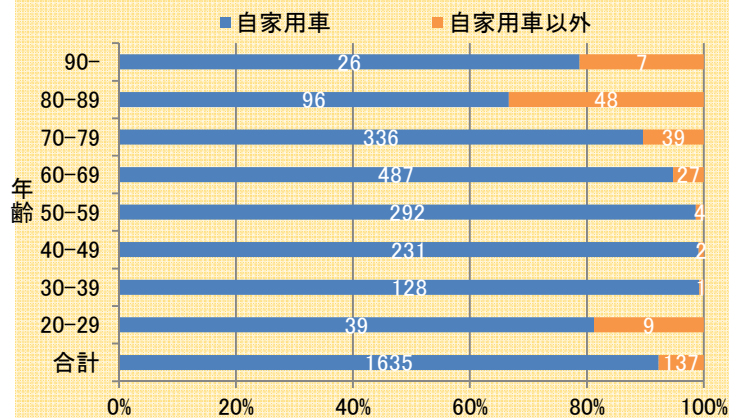
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問3 避難前に多く利用していた移動手段は何でしたか

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス)

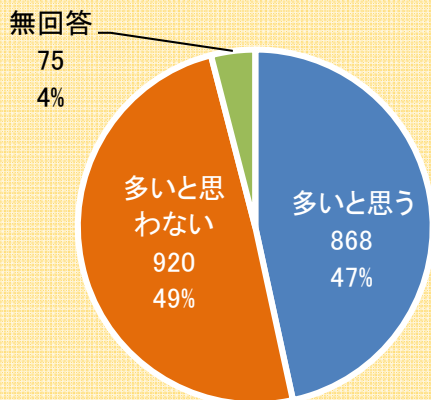


3. 考察

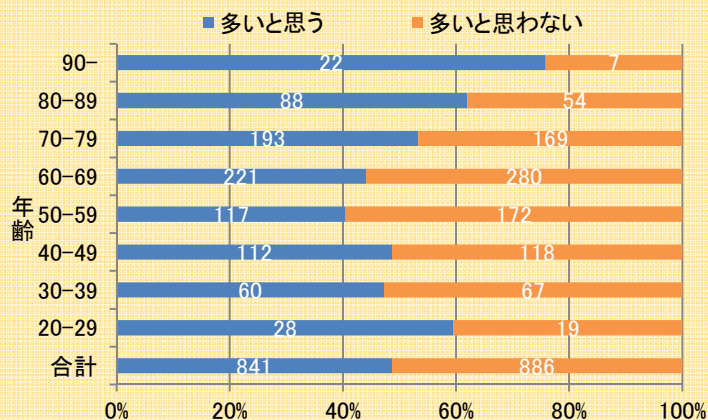
- 高齢者を除く多くの世代が自家用車を利用していた割合が高い
- 20代には、8年前の発災時に中・高校生だった世帯主が含まれていることから、自家用車以外の移動手段の利用が多いと考えられる

問4 大川原地区復興拠点と大野駅を移動する公共交通があれば、利用する人が多いと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス)



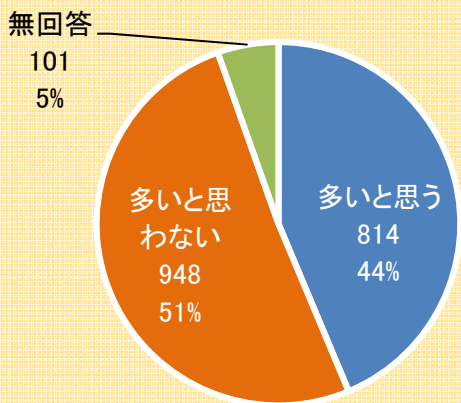
3. 考察

- 概ね半数が、利用する人が多いと回答
- 高齢者層にその割合は高いが、20代でも6割が利用する人が多いと回答

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問5 町外に移動するために、電車以外の手段があれば利用する人は多いと思いますか

1. 集計結果



2. 主な個別意見(主な行き先・施設)

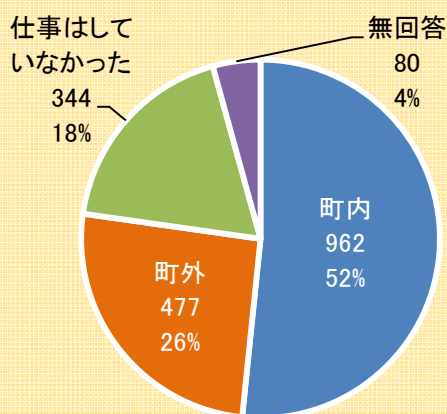
- 市町村等
 - いわき市 [86]
 - 富岡町 [44]
 - 浪江町 [17]
 - 仙台市 [16]
 - 東京都・関東圏 [16]
 - 施設
 - 商業施設 [73]
 - 医療施設 [67]
- ※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

- 概ね半数が多いと思うと回答
- いわき及び隣接する富岡への移動に、電車以外の手段の利用を想定する人が多い
- 利用目的は、買い物や通院が上位

問6 避難前の職場はどこでしたか

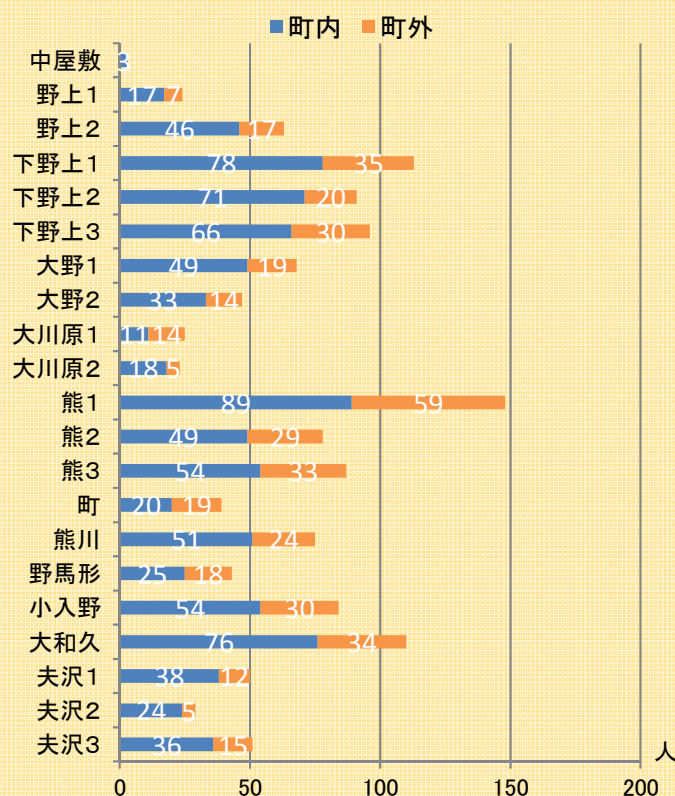
1. 集計結果



3. 考察

- 全体の約半数が町内で就労
- 町外就労者は、住宅地が整備された行政区に多い

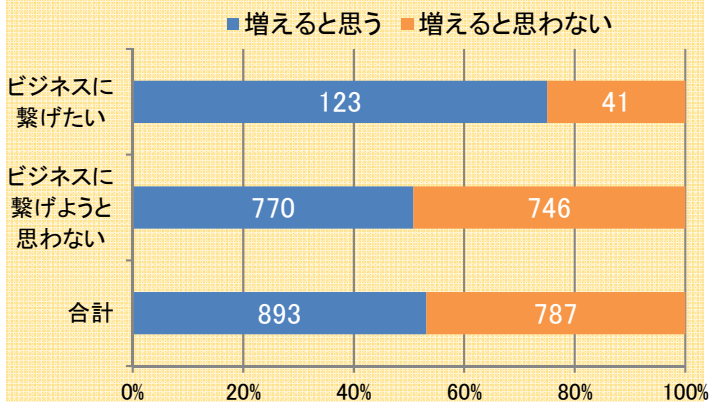
2. 分析結果(震災当時の居住地とのクロス)



【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問7 町内に働く場所があれば、町に住む人は増えると思いますか

1. 集計結果(大熊の社会課題をビジネスに繋がりたいかとのクロス)



2. 主な個別意見(具体的な産業で主なもの)

スーパー等商業施設	[252]
飲食店	[68]
廃炉関連産業	[26]
農業	[17]
医療・介護	[16]

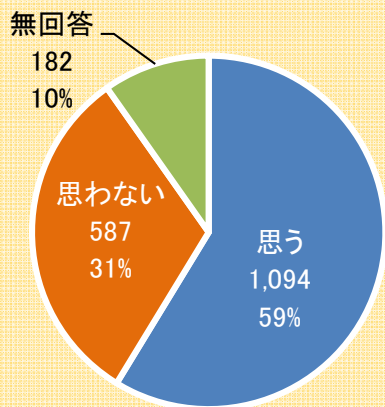
※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

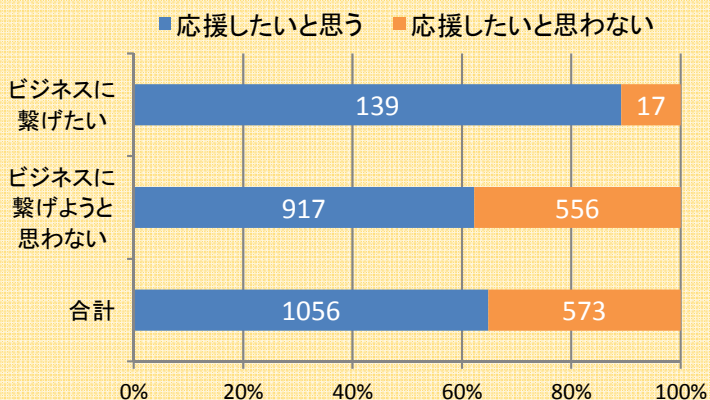
- 起業意向のある人は、働く場の確保が町への定住に繋がると考えている割合が高い
- 具体的な産業として、商業施設、飲食店、廃炉関連産業が上位

問8 町内で起業する人がいたら、応援したいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(大熊の社会課題をビジネスに繋がりたいかとのクロス)



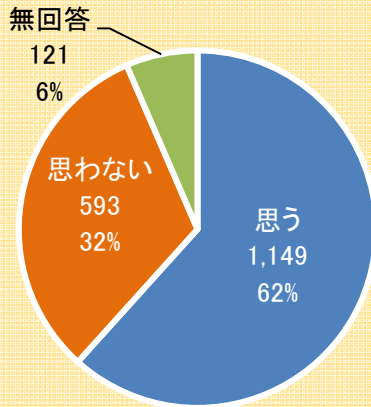
3. 考察

- 起業を応援する意向のある人が約6割
- 自ら起業する意向が無い人でも、応援したいと考えている人の割合は高い

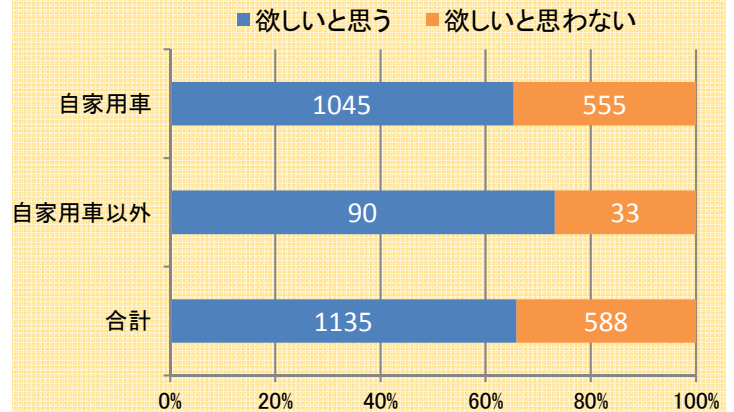
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問9 平成31年3月の完成を目指している常磐自動車道大熊インターチェンジの開通にあわせて、サービスエリア等が欲しいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(避難前に多く利用していた移動手段とのクロス)

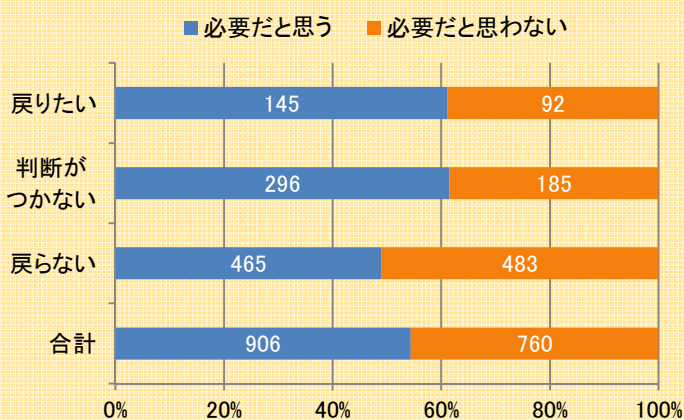


3. 考察

- サービスエリア等が必要と思う人の割合が高い
- 自家用車以外の交通手段を利用していた人でもサービスエリア等を必要としている割合も高い

問10 国道6号線沿いには商業施設が必要だと思いますか

1. 集計結果(帰町意向とのクロス)



2. 主な個別意見(必要な施設)

コンビニ	[143]
スーパーマーケット	[81]
飲食店	[79]
ガソリンスタンド	[64]
ホームセンター	[39]
道の駅	[29]
娯楽施設	[15]

※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

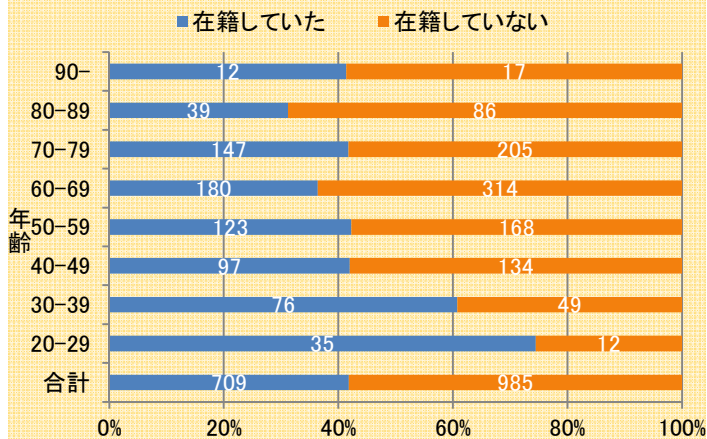
- 商業施設が必要と思う人の割合が高い
- 具体的には、被災前に国道に立地していた、コンビニ、飲食店等が上位

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

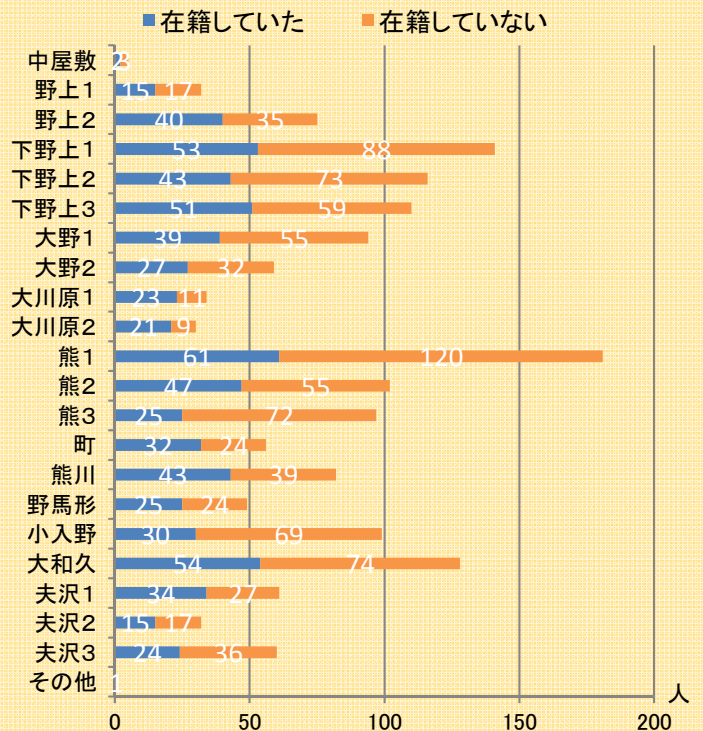
4. 教育について

問1 あなたは大野小学校、熊町小学校、大熊中学校のいずれかに在籍していましたか

1. 集計結果(年齢とのクロス)



2. 分析結果(震災当時の居住地とのクロス)

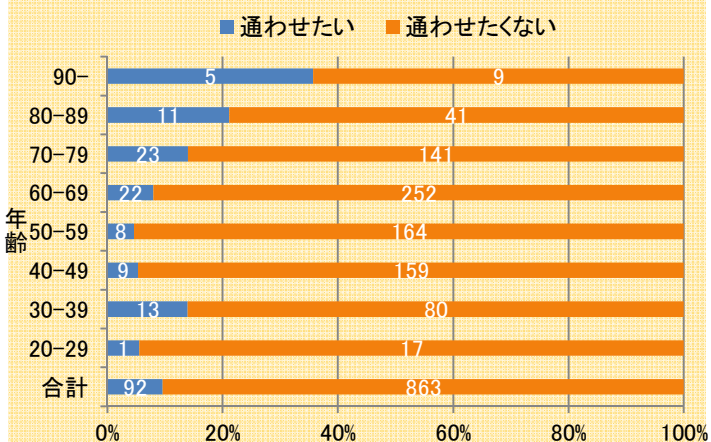


3. 考察

- 20代、30代が多く在籍していた
- 高齢者は合併前の学校に在籍していたものの、名称が異なるため、在籍していないと回答したと想定される

問2 大熊町内に幼稚園・小学校・中学校が建設されたら、お子様やお孫様を通わせてみたいと思いますか

1. 集計結果(年齢とのクロス)



2. 主な個別意見(理由)

- 通わせたい理由
 - 大熊町への愛着 [7]
 - 少人数教育のメリット [3]
 - 通わせたくない理由
 - 既に避難先に生活基盤がある [96]
 - 原発・放射線等への不安 [61]
 - 教育上の不安(少人数等) [26]
- ※ [] 内は回答数。複数回答あり

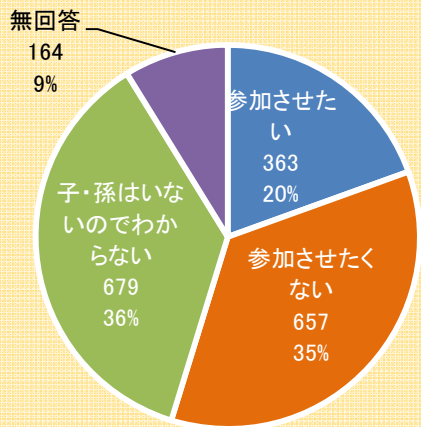
3. 考察

- 通わせてみたいという人が約90名いる
- 思わない主な理由は、既に避難先に生活基盤があること、原発・放射線等への不安、少人数等の教育上の不安が上位

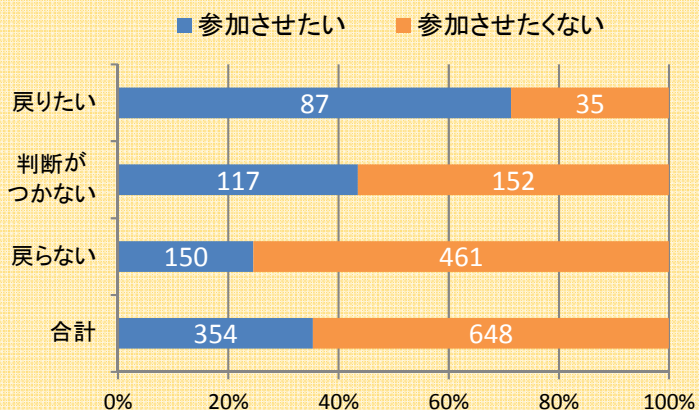
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問3 お子様やお孫様が
大熊町内で、短期間(例えば夏休みの1週間とか)大熊の歴史や抱えている課題への取組みを学ぶような機会があれば参加させてみたいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)

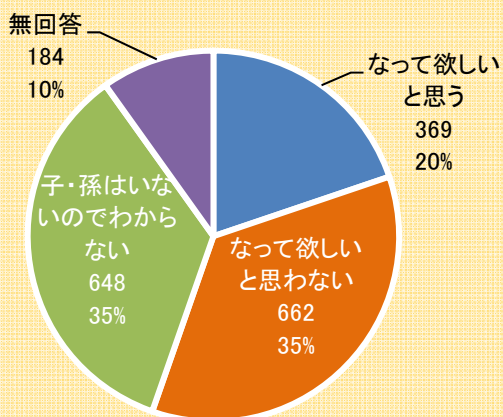


3. 考察

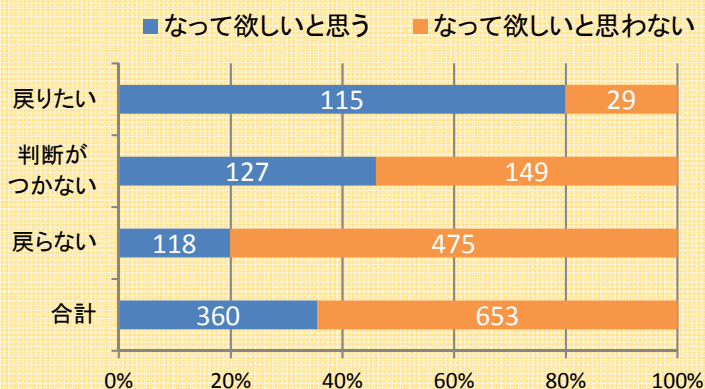
- 帰町を希望する町民の参加意向が高い
- 戻らないと決めている町民でも、2割強は参加意向がある

問4 お子様やお孫様が将来、大熊を支える人になって欲しいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)



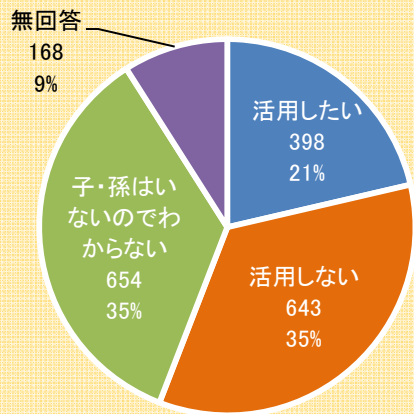
3. 考察

- 帰町を希望する町民は、子・孫に大熊を支えて欲しいと思う割合が高い
- 戻らないと決めている町民でも、2割はそう思う人がいる

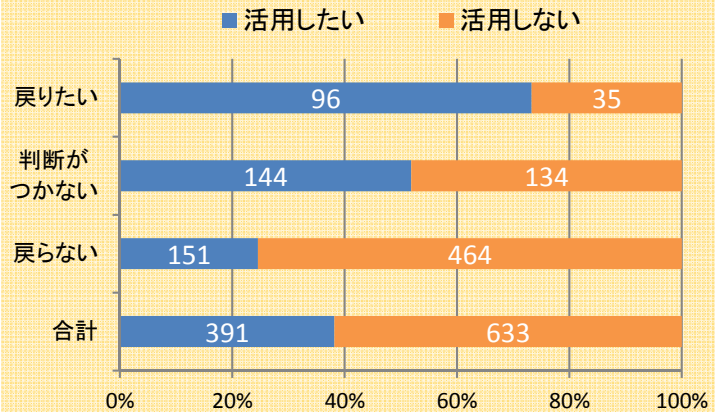
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問5 お子様やお孫様の教育のために町の奨学金制度や海外派遣制度を活用したいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)

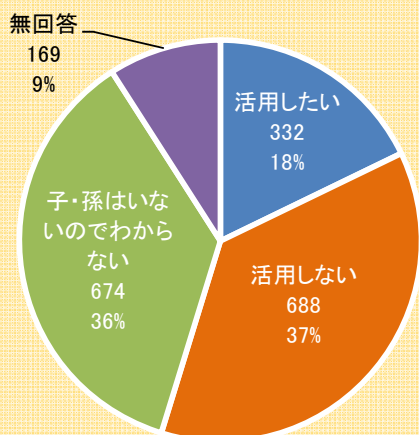


3. 考察

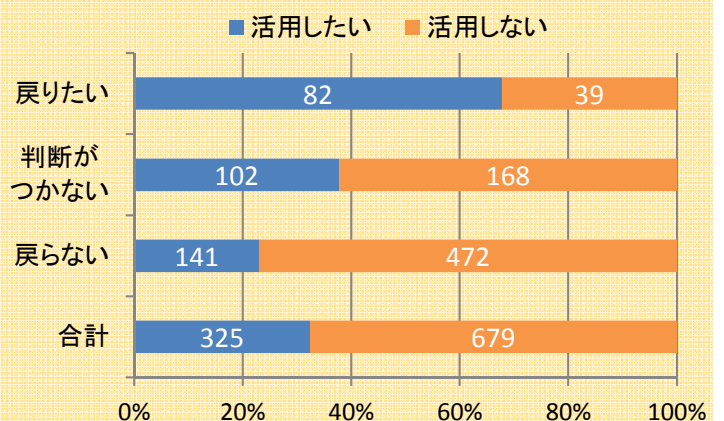
- 帰町を希望する町民の活用意向は高い
- 戻らないと決めている町民でも2割強の人が、活用意向がある

問6 大熊町が避難先で実施する子供向けのイベントや学習会を活用したいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)



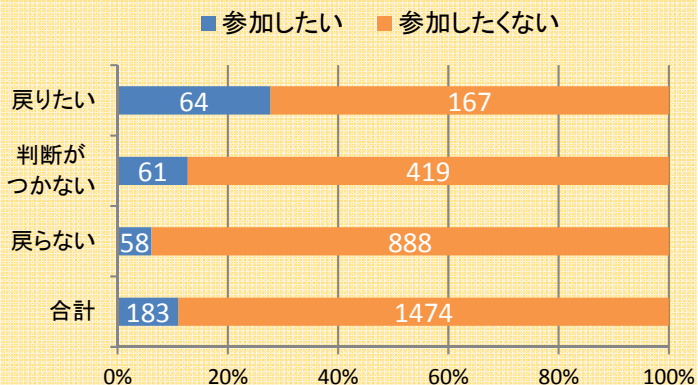
3. 考察

- 帰町を希望する町民の活用意向は高い
- 戻らないと決めている町民でも2割強の人が、活用意向がある

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問7 もし大熊に多くの子供が戻れば、自分の特技(例えばスポーツ、手芸)や知識(例えばプログラミング)を子供たちに教える場に参加したいですか

1. 集計結果(帰町意向とのクロス)



2. 主な個別意見(教えたこと)

スポーツ	[34]
文化・芸術	[17]
自然・科学等	[7]
語学	[3]
町の歴史等	[3]

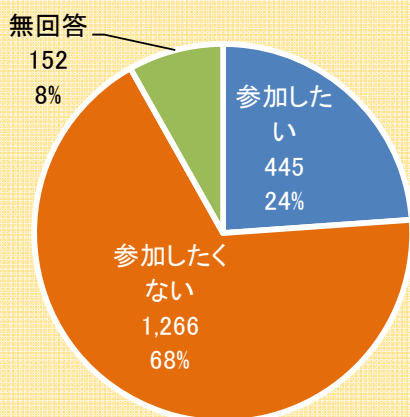
※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

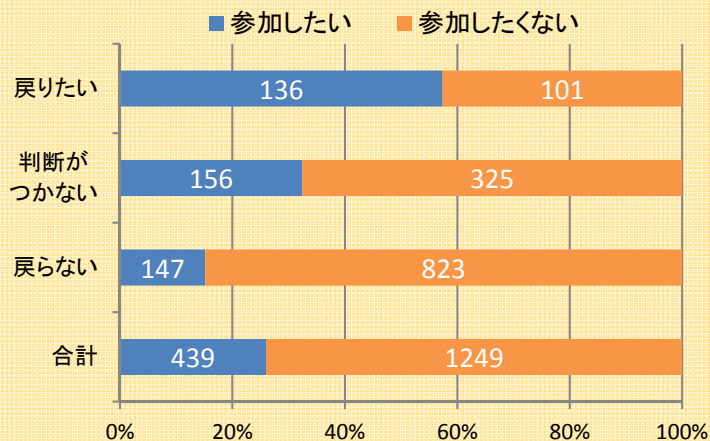
- 帰町を希望する町民の参加意向は、他と比べて高い
- 教えた内容は、スポーツ、文化・芸術、自然・科学等が上位
- 戻らないと決めている町民でも、約60名の参加意向がある

問8 あなたは大熊の課題の解決に皆で取り組む大人向けの学校があれば参加してみたいですか

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)



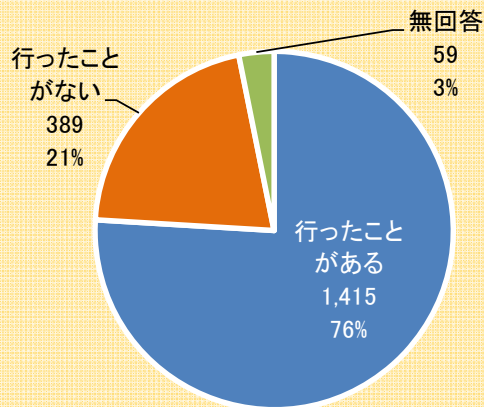
3. 考察

- 帰町を希望する町民の参加意向は高い
- 戻らないと決めている町民でも、2割弱の人が参加意向がある

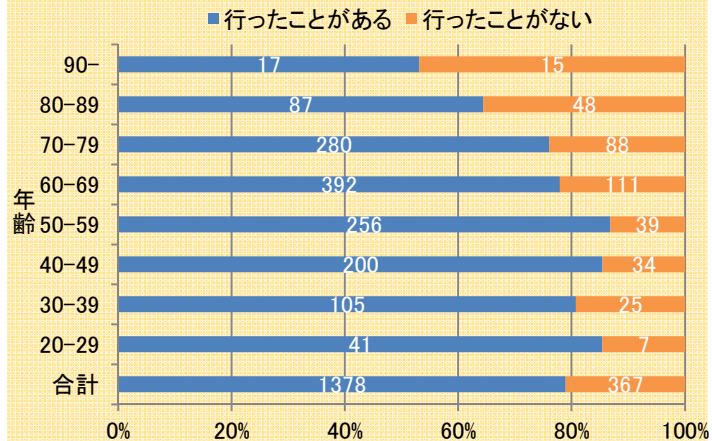
【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問9 あなたは大熊町の図書館に行っただことがありますか

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス)

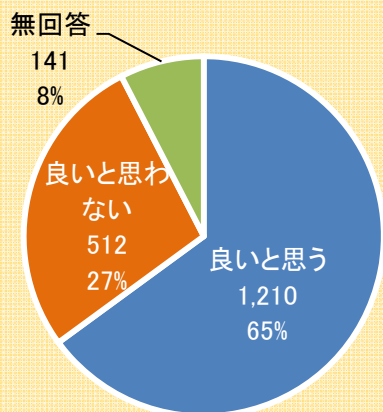


3. 考察

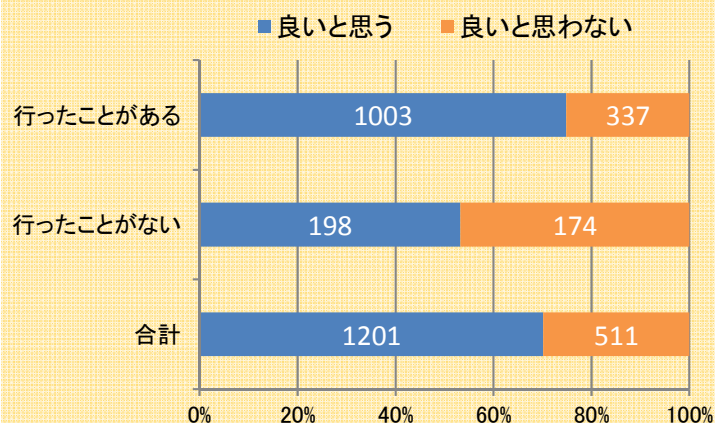
○年齢に関わらず、図書館に行ったことのある町民の割合は高い

問10 大熊町内の小学校・中学校の中に、誰もが利用できる図書室があればいいと思いますか

1. 集計結果



2. 分析結果(図書館の利用有無とのクロス)



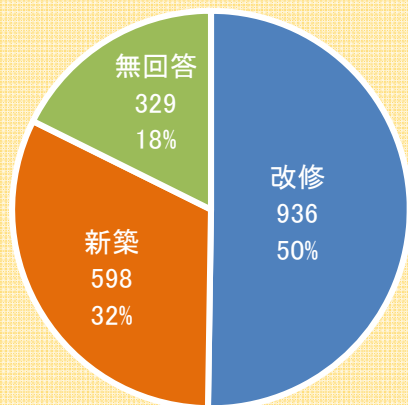
3. 考察

- 7割弱の人が、図書室開放はいいと回答
- 読書ができる環境が求められていると考えられる

【2. 大熊町第二次復興計画改訂案について】

問11 大熊に関する資料や文化財を保存・伝承する施設としては、町内の既存の建物を改修した方がよいと思いますか、新築がよいと思いますか

1. 集計結果



2. 主な個別意見(理由等)

○改修の理由

コスト抑制 [117]

保存・伝承にふさわしい [43]

(改修が望ましい施設)

図書館 [107]

町役場 [26]

小・中学校 [19]

○新築の理由

新庁舎近くに設置し利便性を確保 [36]

放射能汚染・老朽化が心配 [31]

新たな出発には新たな施設が必要 [14]

※ [] 内は回答数。複数回答あり

3. 考察

○改修が良いとする意見が多い(コスト抑制、保存・伝承の目的等)

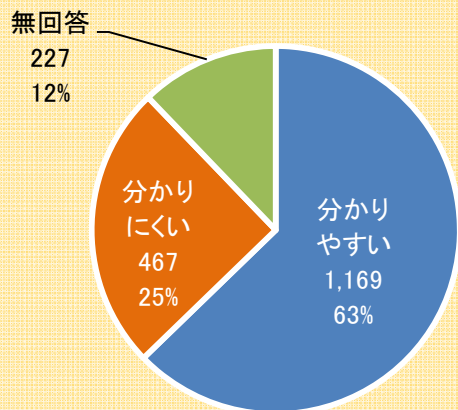
○改修すべき施設は、図書館が最も多く挙げられている

○新築の理由は、新庁舎近くに設置することによる利便性の確保、既存建物の放射能汚染・老朽化への懸念が上位

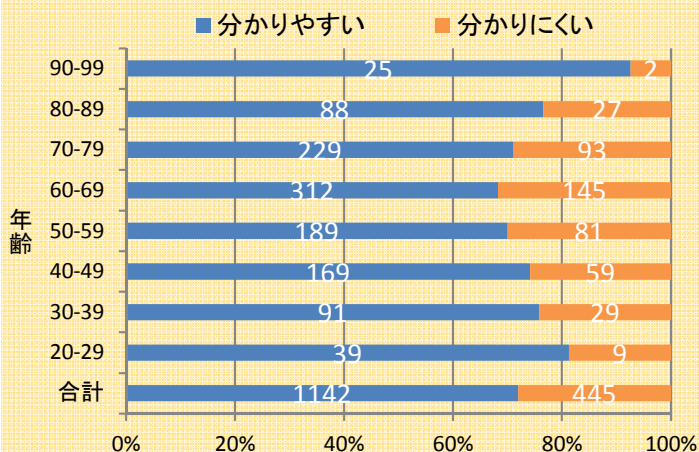
5. 第二次復興計画改訂(概要版)(案)のわかりやすさについて

同封しました「第二次復興計画改訂(概要版)(案)」は、町が今後取組みを検討している施策がわかりやすく表現されたものとなっていましたか

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス集計)



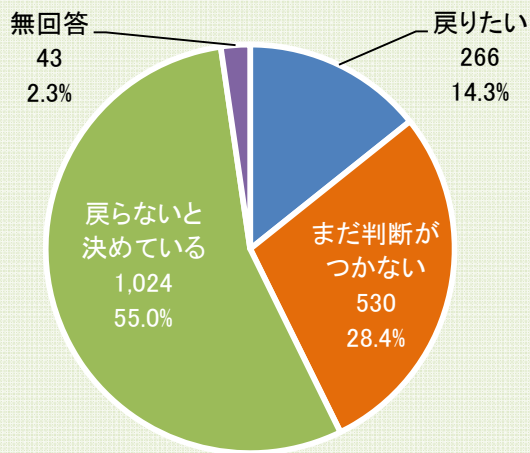
3. 考察

○年齢に関わらず、6割強の方が分かりやすいと回答

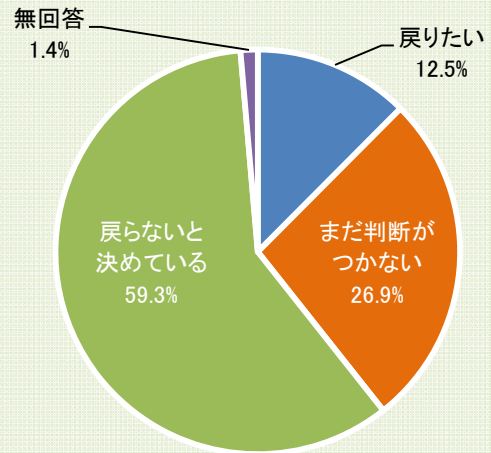
【3. 帰町に関する意向について】

問1 避難指示解除後の大熊町への帰町意向について

1. 集計結果



(参考)平成29年度住民意向調査

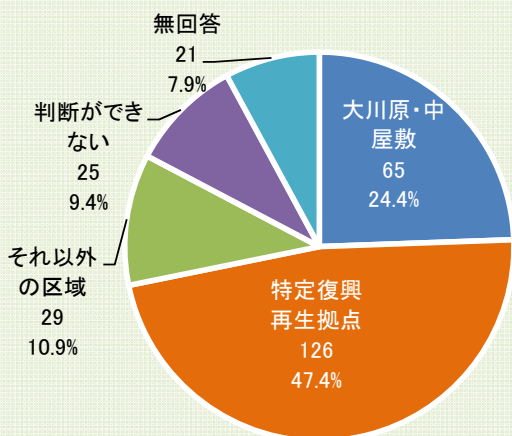


2. 考察

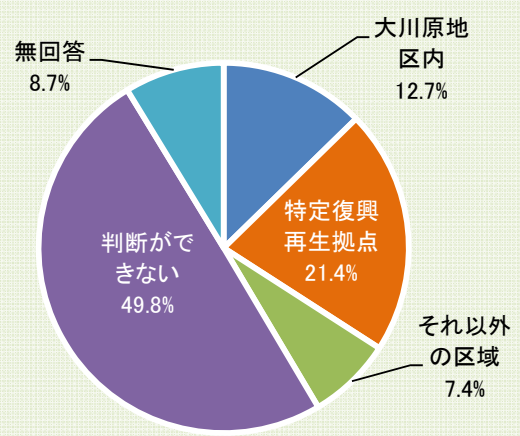
- 帰町を希望する町民は14.3%と昨年度住民意向調査から1.8%アップ
- 戻らないと決めている町民も4.3%減っている

問2 居住地の希望〔戻りたいと考えている方〕

1. 集計結果



(参考)平成29年度住民意向調査



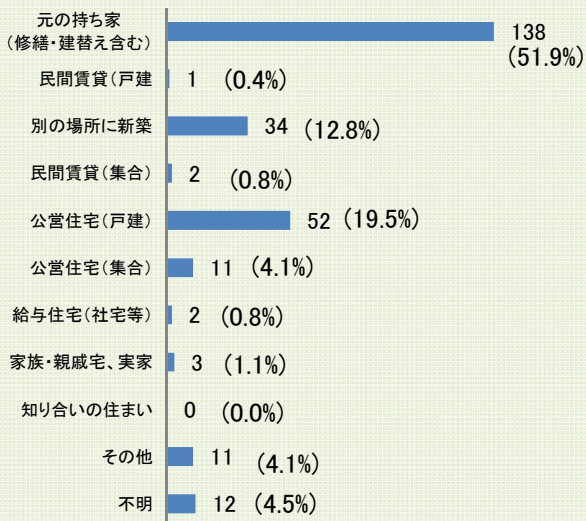
2. 考察

- 帰町を希望する町民の約3割が大川原・中屋敷地区へ、また約半分の方が特定復興再生拠点への居住を希望
- 一方で判断ができないと回答した方が、昨年度住民意向調査から約40%程度減っている

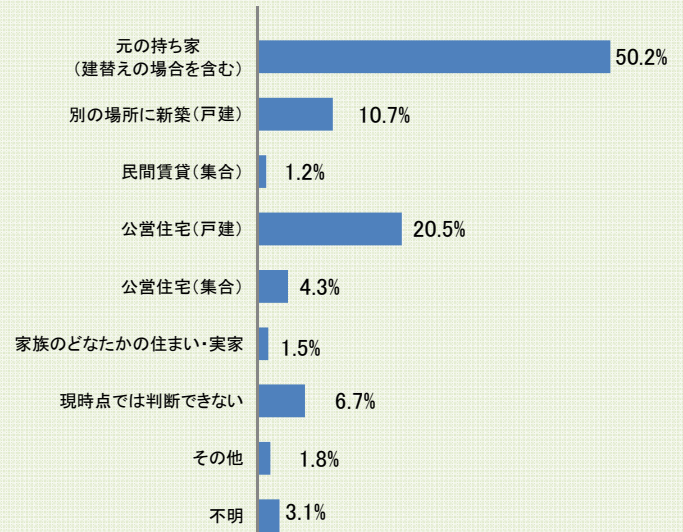
【3. 帰町に関する意向について】

問3 居住形態の希望〔戻りたいと考えている方〕

1. 集計結果



(参考)平成29年度住民意向調査

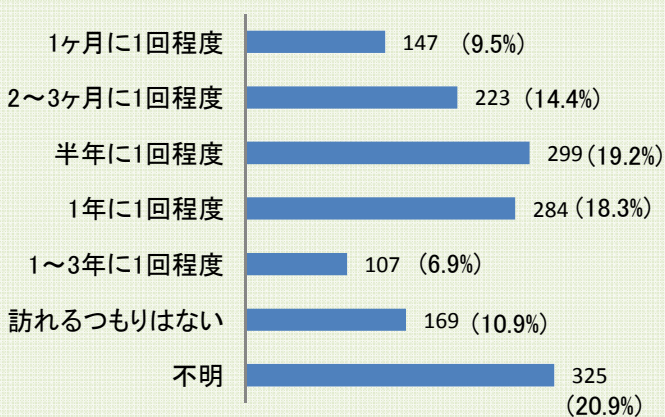


2. 考察

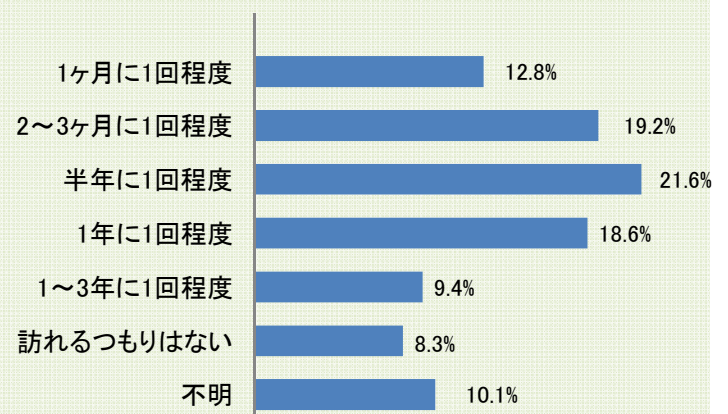
- 元の持ち家（修繕、建替え含む）への居住希望が50%以上と高い
- 昨年度住民意向調査に比べ、別の場所に新築を希望する割合が2%強増加

問4 来町予定頻度〔まだ判断がつかない方、戻らないと決めている方〕

1. 集計結果



(参考)平成29年度住民意向調査



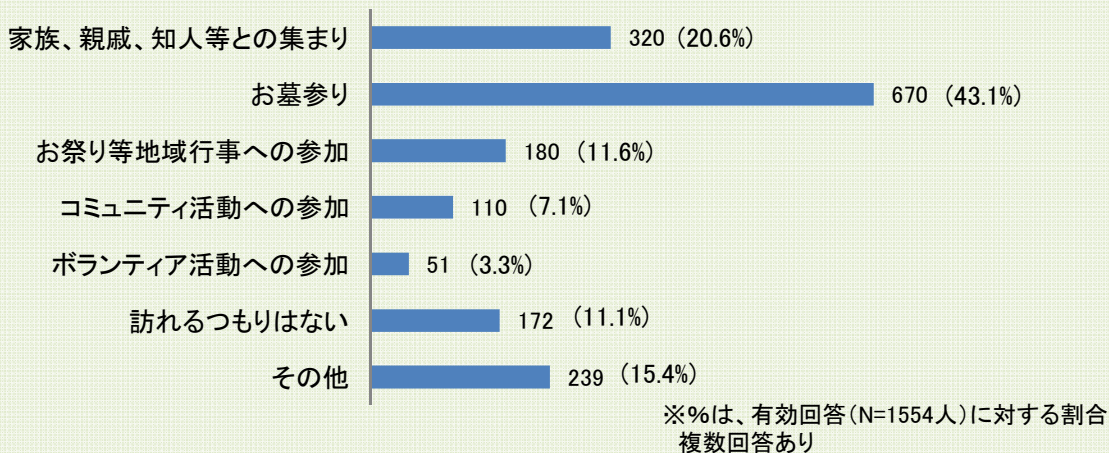
2. 考察

- 来町頻度は半年に1回程度、及び1年に1回程度と回答する方がそれぞれ全体の2割と多い

【3. 帰町に関する意向について】

問5 来町目的〔まだ判断がつかない方、戻らないと決めている方〕

1. 集計結果

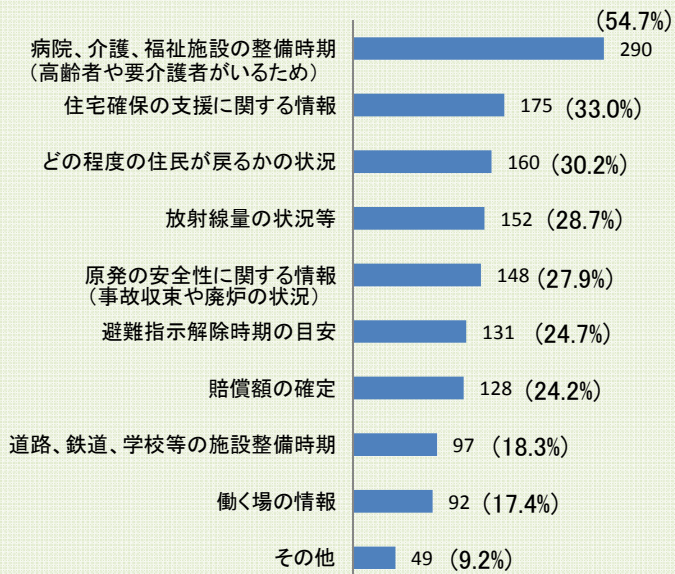


2. 考察

- 来町目的は、お墓参りが最も多い
- 家族等との集まりも全体の2割の方が来町目的としている

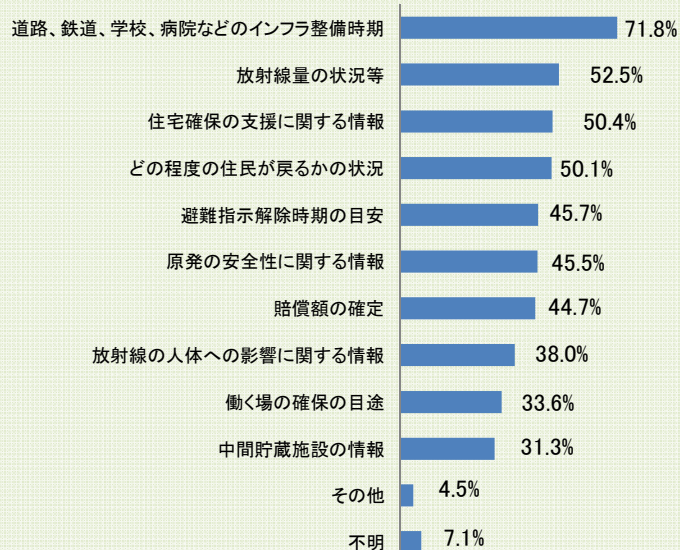
問6 帰町の判断に必要なこと〔まだ判断がつかない方〕

1. 集計結果



※%は、有効回答(N=530人)に対する割合
複数回答あり

(参考)平成29年度住民意向調査



※%は、有効回答(N=705人)に対する割合
複数回答あり

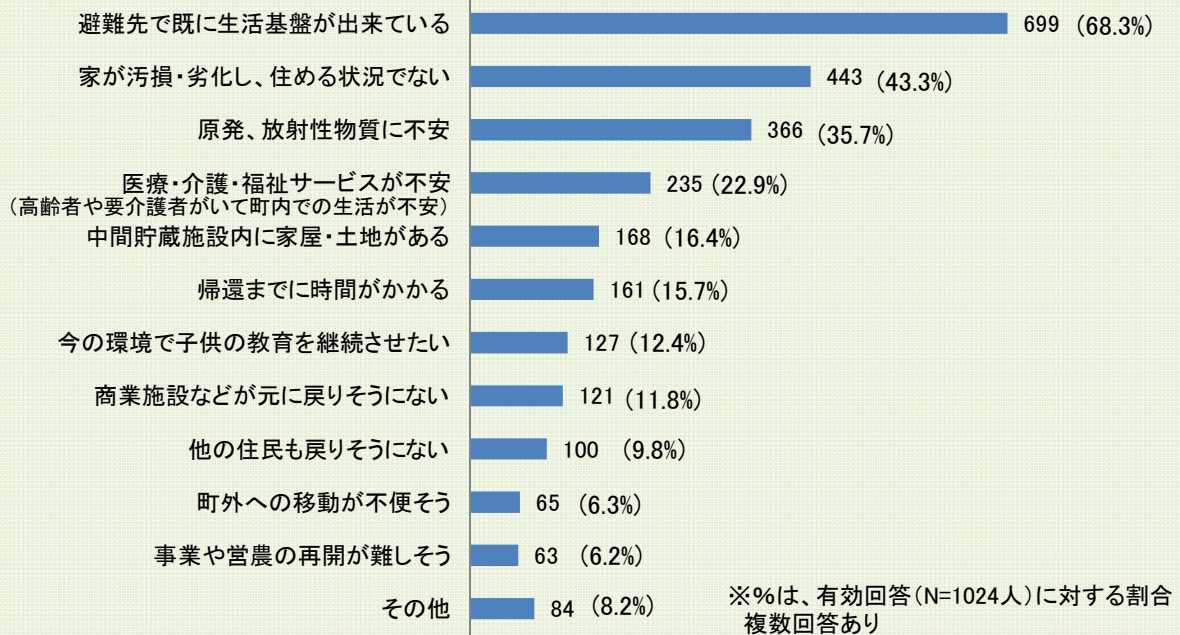
2. 考察

- 病院、介護、福祉施設等の整備時期を回答する方が半数以上と多い

【3. 帰町に関する意向について】

問7 戻らないと決めている理由〔戻らないと決めている方〕

1. 集計結果

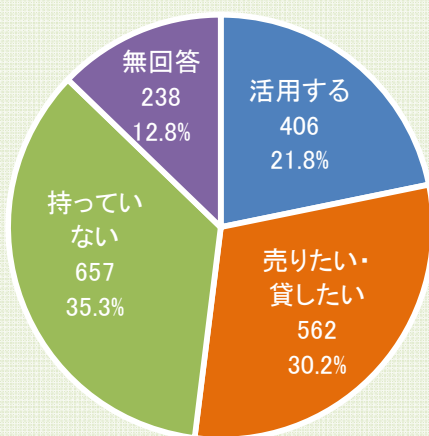


2. 考察

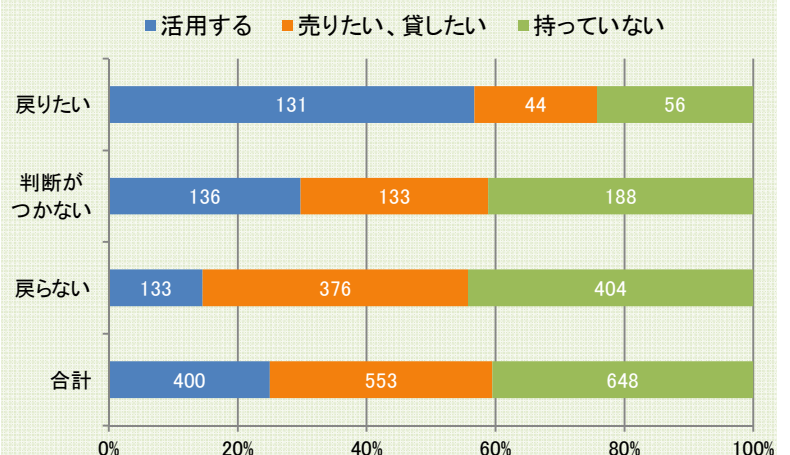
○避難先における生活基盤の確立、家の汚損・劣化、原発・放射性物質への不安が、上位

問8 町内に持っている土地・建物の活用意向

1. 集計結果



2. 分析結果(帰町意向とのクロス)



3. 考察

○売りたいまたは貸したいと回答した方が全体の3割と高い
○自由意見では、土地を町に買い取って欲しいという意見も多く見られた

【3. 帰町に関する意向について】

問9 帰町する人へ町が支援すべきと考えるもの

1. 集計結果

引越費用	[61]
帰還に係る準備費用(リフォーム、家財等)	[57]
交通費(町内外の移動等)	[40]
害獣駆除、防犯等の費用	[31]
医療・介護・子育ての費用	[25]
帰町時の手伝い	[20]
帰町後の見守り・声かけ	[15]

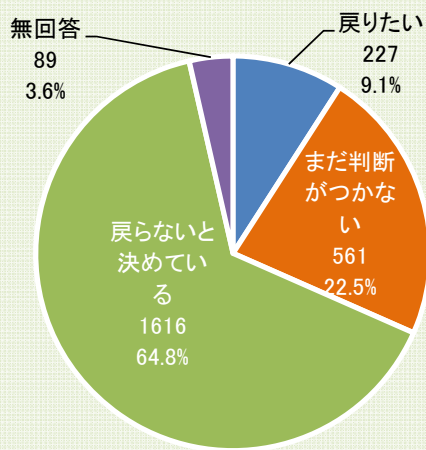
※〔 〕内は回答数。複数回答あり

2. 考察

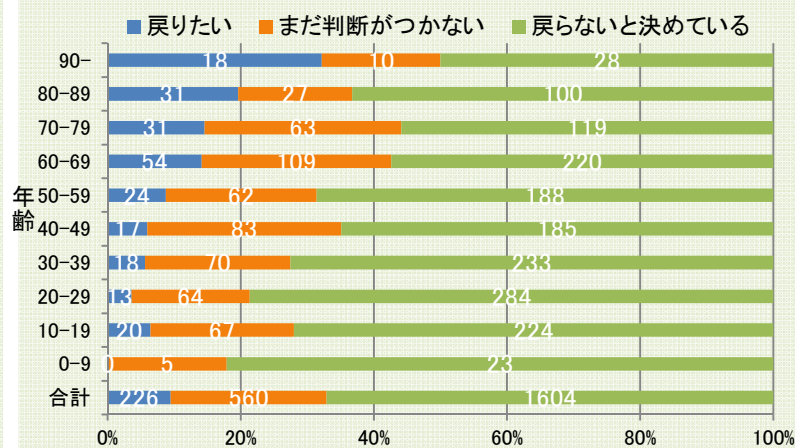
○帰町時に必要となる、引越、住居の準備及び町への移動に係る費用に対する支援が上位

問10 家族の帰町意向

1. 集計結果



2. 分析結果(年齢とのクロス)



3. 考察

- 世帯主に比べ、帰町を希望する町民の割合は低い
- 30代以下の帰町しない割合は、他の年代に比べて高い

【4. 自由意見】

【主な意見】

➤ 計画への推進意見

- ・公営住宅の整備促進
- ・道路等インフラ整備の促進
- ・高齢者サービスの早期充実
- ・働く環境の早期整備の必要性
- ・公共交通サービスの早期整備
- ・昔の面影を残した拠点整備
- ・昔の面影のない新たなまちづくりの推進（おしゃれな街）

➤ 計画に対する反対意見

- ・デブリの取り出し等1Fの廃炉見通しが立たない状況下で復興はあり得ない
- ・大川原地区復興拠点整備を進めることへの反対（大野駅周辺を充実すべき）
- ・新庁舎をはじめとする施設整備は不要（その予算を町民に配布すべき）
- ・町民が戻らない状況では、復興整備が必要ない
- ・学校は大川原地区復興拠点に整備すべきでない

➤ 計画への要望

- ・避難先での役場機能の継続（大川原新庁舎での業務集中に不満）
- ・特定復興再生拠点外の計画の明示（計画がないのはおかしい）

➤ その他要望、意見

- ・放射線汚染を常に開示すべき
- ・町への生活支援要請
- ・保有している土地の町への買い取り要請
- ・国、東電への賠償継続に町に期待

➤ 俯瞰的意見

- ・避難先で新たに住宅を構えた者は住民票を避難先に移すべき
- ・役場職員への感謝
- ・復興に役立ちたい（何をしたらいいか具体的に教えて）